

浜益区介護サービス充足状況調査 結果報告書

1. 目的

第8期石狩介護保険計画策定に向け、浜益区での介護サービス等の利用及び充足状況や、将来の在宅サービスや介護施設入所の希望動向等を把握し、今後、浜益区で生活していく上で、どのようなサービスが必要とされるかを把握するために実施した。

2. 対象と手法

浜益区において在宅生活を送っている、介護サービス利用者、介護サービス未利用の要介護認定者、85歳以上の未認定者の方を対象に、浜益支所市民福祉課、浜益地域包括支援センター職員が聞き取りによる調査を行った。

3. 調査期間

令和2年7月から令和2年8月末まで（最終回答9月18日までを含む）

4. 調査件数

126件（対象数135件のうち、入院や長期不在等で調査ができなかった9件を除く）

	対象数	調査数	性別		総合事業	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
			男	女								
介護サービス利用者	55	51	18	33	1	17	10	14	5	3	1	0
介護サービス未利用の要介護認定者	18	18	6	12	0	9	5	4	0	0	0	0
85歳以上(未認定者)	62	57	26	31								
計	135	126	50	76	1	26	15	18	5	3	1	0
構成比率(%)			39.7	60.3	0.8	20.6	11.9	14.3	3.9	2.4	0.8	0.0

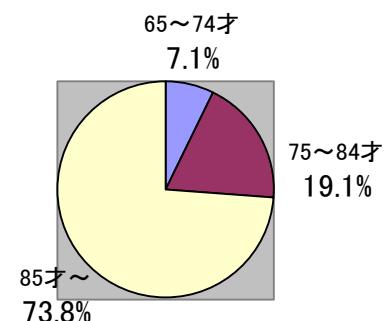
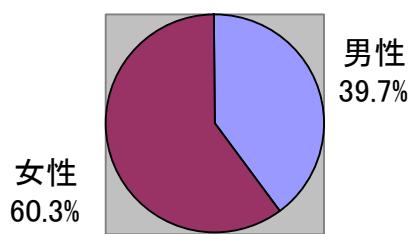
5. 回答者の状況

①. 性別

	人数
1. 男性	50(39.7%)
2. 女性	76(60.3%)
計	126

②. 年齢

	人数
1. 65~74才	9(7.1%)
2. 75~84才	24(19.1%)
3. 85才~	93(73.8%)
計	126

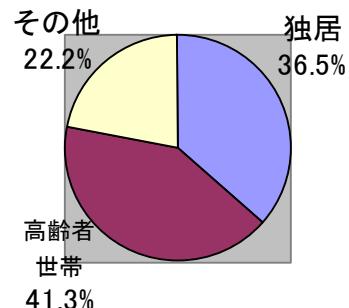


③. 居住地区

	人数
1. 浜益	20 (15.9%)
2. 群別	14 (11.1%)
3. 幌	19 (15.1%)
4. 床丹	0 (0.0%)
5. 千代志別	1 (0.8%)
6. 雄冬	2 (1.6%)
7. 川下	23 (18.3%)
8. 柏木	14 (11.1%)
9. 実田	13 (10.3%)
10. 御料地	0 (0.0%)
11. 麻砂別	18 (14.3%)
12. 送毛	1 (0.8%)
13. 濃昏	1 (0.8%)
計	126

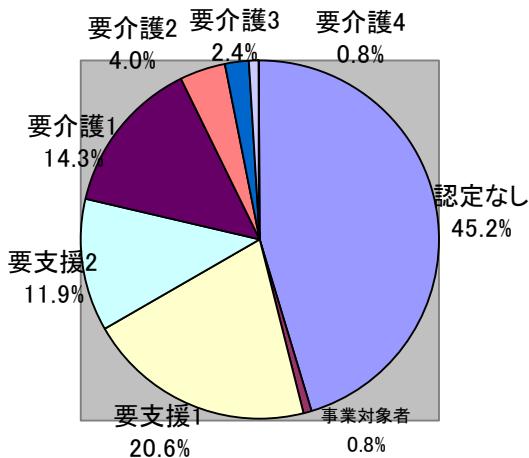
④. 世帯状況

	人数
1. 独居	46 (36.5%)
2. 高齢者世帯	52 (41.3%)
3. その他	28 (22.2%)
計	126



⑤. 介護度

	人数
1. 認定なし	57 (45.2%)
2. 事業対象者	1 (0.8%)
3. 要支援1	26 (20.6%)
4. 要支援2	15 (11.9%)
5. 要介護1	18 (14.3%)
6. 要介護2	5 (4.0%)
7. 要介護3	3 (2.4%)
8. 要介護4	1 (0.8%)
9. 要介護5	0 (0.0%)
計	126



6. 調査結果の概要

【介護サービス等の利用状況】(5P~8P)

問1. 現在利用中の介護保険サービス等についてお聞かせください。

<介護保険サービス①~⑥>

- ・訪問看護、訪問リハビリは、昨年から提供開始となったサービスであるが、サービス提供事業所が区外であり、提供できる曜日や利用人数に限りがある現状である。総合相談の中で支援の相談を受けることが多く、今後も利用希望の増加が見込まれるサービスであると考える。
- ・通所介護（デイサービス）は、介護サービス利用者の50%以上が通所介護を利用しているが、増回を希望する方が他のサービスに比べて多かった。通所型のサービスが他にないことから、利用者の状況や利用目的は多岐にわたっている。三方向への送迎が必要であり、事業所から遠い地区へのサービス提供については、利用者のニーズと提供体制のマッチングが課題である。

<医療・福祉サービス⑦～⑪>

- ・国保診療所の医師の往診は、区内バスの利用が困難となった場合に利用を希望する場合が多く、昨年から週2回に増やし対応にあたっている。必要時、診療所の看護師による訪問にも応じている。調剤薬局の薬の配達と合わせて在宅生活の支えとなっている。
- ・配食サービスの利用者は、介護保険サービスを複合的に利用している方が多かった。また、土日祝日にサービスがないことで不足感を感じている人も多かった。

○サービスの種類及び提供する事業所が少なく、利用人数や曜日に限度がある。また、土日祝日にサービス提供ができないものが多く、在宅生活への不安やサービスの不足感につながっている。

○介護保険以外の福祉サービス（配食や除雪サービス）も、民間で代替できるものがなく、浜益区の高齢者が生活していくうえで欠かすことができないサービスである。

○認定介護度は「要支援1」～「要介護1」の方が多数。在宅では比較的介護度の低い方が多い。半面、介護度が高くなり、必要なサービスの種類や量が増加すると、区内では対応できないという現状がある。

【現在よりも介護が必要になった時の暮らしについて】（9P～15P）

問2. この先の生活のイメージをお聞かせください。

- ・約7割(69.8%)が「自宅または浜益区内で暮らすだろう」と回答した。地元志向であり、愛着のある家や地域で人生を全うしたいと考えていることが分かった。要介護認定を受けている方、子と同居若しくは浜益区内に家族が居住している方が多かったが、介護が必要になった時のことを具体的にイメージしておらず、現時点での希望として回答した方や、特に明確な理由がないという方が1割ほどいた。
- ・約3割が「浜益区外で暮らすだろう」と回答した。回答者の多くは、区外で暮らす理由やタイミングを具体的にイメージしていた。また、要介護認定を受けている方よりも、受けていない方のほうが多かった。

問3.（「自宅または浜益区内で暮らすだろう」を選択した人）どのような暮らしやサービスを考えますか？

- ・過半数(51.1%)が「自宅で夫婦または単身で暮らしたい」「家族のところで暮らしたい」と回答した。「施設に入所して暮らしたい」と回答したのは48.9%だった。
 - ・「自宅で夫婦または単身で暮らしたい」「家族のところで暮らしたい」と回答した方が利用したいサービスは、いずれも通所介護（デイサービス）が多く、認知度の高さを感じた。利用できるものはすべて、といった複合的な利用を希望する方多かった。
- ・年齢が高くなるにしたがって、また、子と同居していたり、シルバーホーム等で既に生活支援を受けながら暮らしている方に「施設に入所」を選択する方が多かった。
- ・「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が利用したい施設は「特養あいどまり」が最も多かった(76.7%)介護サービス利用者が5割以上だったが、4割が未認定の方で、今後何かあれば入れてもらうなど施設の種別や対象を十分理解せず選択している印象があった。

○「自宅または浜益区内」と回答した方で、在宅の継続を希望した人が半数以上存在する。愛着のある自宅や住み慣れた地域での生活を続けていくために、介護サービスや福祉サービスを複合的に利用できることを希望している。

○利用したい施設で「特養あいどまり」を選択した方は多かったが、そのうちの4割の方は施設の種別や対象を十分理解していない印象があった。

問4.（「浜益区外で暮らすだろう」を選択した人）どのような暮らしやサービスを考えますか？

- ・「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が約7割（68.4%）だった。「一軒家またはアパート・マンションで暮らしたい」という方は少数（5.3%）だった。
- ・利用したい施設は、「その他」と回答した人が約5割（46.1%）と最も多く、次に「サービス付き高齢者住宅」3割（30.8%）であった。「特養・グループホーム」は約2割（19.2%）だった。

○区外に行く理由の多くが「子供の住む場所の近くにいきたい」というものであったが、「施設に入所して暮らしたい」と選択の背景には「子供に迷惑をかけたくない」という思いがあると考える。

○施設の種類としては、「特養・グループホーム」よりも「サービス付き高齢者住宅」を選択する人が多かった。

6. 調査結果の詳細

【介護サービス等の利用状況】

問1. 現在利用中の介護保険サービス等についてお聞かせください。

①. 訪問介護（ホームヘルプ）

	利用者数	週1回	週4回
総合事業			
要支援1	2	2	
要支援2	2	2	
要介護1			
要介護2	1		1
要介護3	1		1
要介護4			
計	6	4	2

訪問介護の利用者は6名で、サービス利用者の12.0%が利用。

サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

②. 訪問看護

	利用者数	週1回	その他
総合事業			
要支援1			
要支援2			
要介護1	1	1	
要介護2			
要介護3	1		1
要介護4			
計	2	1	※1 1

訪問看護の利用者は2名で、サービス利用者の3.9%が利用。

サービス充足度は、1名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数
・隔週→週1回…1名

※1 隔週利用

③. 訪問リハビリ

	利用者数	週1回	週2回
総合事業			
要支援1	2	2	
要支援2	1	1	
要介護1	4	1	3
要介護2			
要介護3	1	1	
要介護4	1		1
計	9	5	4

訪問リハビリの利用者は9名で、サービス利用者の17.6%が利用。

サービス充足度は、2名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数
・週2回→週3回…2名

- ・浜益区で現在利用できる訪問系の介護保険サービスは、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリの3種類である。訪問介護は区内の「訪問介護事業所はます」、訪問看護、訪問リハビリについては、樽川にある「訪問看護・リハビリステーションソレイユ」が昨年5月よりサービス提供を開始している。
- ・訪問介護の利用回数は「週1回」の方が多く、内容は家事援助が中心である。「週4回」の方は、身体介護との併用であった。24時間対応や土日祝日のサービス提供がないこともあり、頻回なサービスを必要とする方については、家族による介護や施設でのサービス提供に頼らざるをえない地域の現状がある。
- ・訪問看護は、看護職の訪問は現在週1回という現状である。総合相談の中では、継続的な体調確認や服薬管理、インスリンや在宅酸素療法等の医療系サービスの必要な方への支援について相談を受けることが多い。特にかかりつけ医が区外の方に関しては、医療系サービスの利用が難しいことで区外への転出を余儀なくされる方もおり、在宅生活を支えるために訪問看護のニーズは高いと考える。
- ・訪問リハビリは、利用者一人に対し週1～2回、リハ職が訪問しサービス提供を行っているが、提供できる曜日や人数に限りがあるため、増回の希望や新規の利用が受けられないこともある。浜益区内では、通所リハビリやリハビリ特化型のデイサービスなどのサービスがないこと、また遠方の病院にリハビリに通うことが難しいということもあり、今後も利用希望者の増加が見込まれる。

④. 通所介護（デイサービス）

	利用者数	週1回	週2回	週3回	週5回	その他
総合事業	1	1				
要支援1	7	7				
要支援2	4	4				
要介護1	9	3	5	1		
要介護2	4		2		1	1
要介護3	3		2	1		
要介護4						
計	28	15	9	2	1	※11

※1 月2回

通所介護の利用者は28名で、サービス利用者の54.9%が利用。サービス充足度は、7名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数
 ・週1回→週2回…6名
 ・週2回→週3回…1名

・浜益区内の方が利用できる通所介護事業所は、送迎距離の問題もあり、区内の「はまますデイサービスセンター」のみである。通所型のサービスが他にないことから、利用者の身体状況や利用目的は多岐にわたる。入浴ができるため、自宅での入浴が難しくなった方の利用が非常に多い。比較的年齢が高い利用者が多く、認知症の方も広く受け入れている。

・浜益区の地理的な特徴として、事業所から三方向に送迎が必要であることから、送迎に要する時間やスタッフの確保は大きな課題である。濃畠・雄冬・御料地地区など事業所から遠い地区へのサービス提供については、利用回数や曜日など、ニーズと提供体制がマッチしない可能性もある。

⑤. 短期入所生活介護（ショートステイ）

	利用者数	月5日	月15日	月30日	その他
総合事業					
要支援1					
要支援2					
要介護1	1		1		
要介護2	3	2			1
要介護3	2	1	1		
要介護4					
計	6	3	2		※1 1

※1 不定期の利用

ショートステイの利用者は6名で、サービス利用者の12.0%が利用。サービス充足度は、1名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数
 ・長期利用したい…1名

・ショートステイはすべて区内の「特養あいどまり」の利用であった。世帯状況をみると、すべて「高齢者世帯」または「その他の世帯」であり、利用者の介護度も他のサービスに比べると高い方が多い。ショートステイを利用しながら、特養入所の待機をしている方もいる。介護が必要な度合いが高くなった時に欠かせないサービスとなっている。また、浜益区では通所系・訪問系いずれも、土日祝日にサービス提供可能な事業所がなく、空白期間を補っているサービスもある。

⑥. 福祉用具貸与

	利用者数	車いす	特殊寝台	手すり	歩行器	歩行補助杖	スロープ	リフト
総合事業								
要支援1	12			8	3	2		
要支援2	8	1		3	6			
要介護1	9	1	3	7	1		1	
要介護2	1				1	1		
要介護3	1	1	1	1				
要介護4	1	1	1		1	1	1	1
計	32	4	5	19	12	4	2	1

福祉用具貸与の利用者は利用者は32名で、サービス利用者の62.7%が利用。

サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

- ・もっとも利用率が高いサービスである。利用者の居住する家屋の多くが、老朽化やバリアフリーを伴わない構造であり、自宅で生活するためには福祉用具の利用が欠かせないという方が多い。
- ・手すりや歩行器を借りている方が多く、一人あたりの貸与数は1品目が24人(75.0%)、2品目が6人(18.8%)、4品目が2人(6.2%)だった。

⑦. 往診（国保診療所）

	利用者数
認定なし	1
総合事業	
要支援1	5
要支援2	3
要介護1	7
要介護2	2
要介護3	1
要介護4	
計	20

国保診療所による往診の利用者は20名で、調査数全体の15.9%だった。頻度はすべて月1回で、サービス充足度は全員が「満足」と回答していた。

<考察>

- ・往診利用者のうち、介護保険サービス利用者は15名で約7割を占める。往診希望の理由は、一人あるいは家族も高齢でバス等を利用して受診行動がとれないという理由がほとんどである。
- ・昨年から週1回を週2回に増回し対応にあたっている。公共交通機関の利用が難しい高齢者にとっては、欠かすことのできないサービスであり、調剤薬局の薬の配達と合わせて、在宅生活の支えとなっている。

⑧. 訪問看護（国保診療所）

	利用者数	週1	その他
認定なし			
総合事業			
要支援1	1	1	
要支援2	1		1
要介護1			
要介護2			
要介護3			
要介護4			
計	2	1	※1 1

※1 2週間に1回

国保診療所による訪問看護の利用者は2名で、調査数全体の1.6%だった。

サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

<考察>

- ・診療所の訪問看護は、ケースによって頻度は様々で、褥瘡(床ずれ)等皮膚疾患の観察や処置など、臨時的に対応するケースも多い。かかりつけ医が区外の場合や、頻回な訪問や専門性を伴う場合には対応が難しいこともある。

⑨. 配食サービス

	利用者数	週1	週5
認定なし	1	1	
総合事業			
要支援1	3		3
要支援2	2		2
要介護1	2		2
要介護2	1		1
要介護3	1		1
要介護4			
計	10	1	9

配食サービスの利用者は10名で、調査数全体の7.9%だった。

サービス充足度は、4名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数

- ・週5回→毎日…4名

- ・配食サービス利用者10名のうち、7名が介護サービスの利用者であった。また、7名全員がデイサービスを利用し、ヘルパー、ショートステイ、往診など複数のサービスを利用している方が多かった。
- ・配食サービスの利用動機としては、身体的な理由で調理動作が難しくなっているだけでなく、認知症の進行も大きな要素である。土日にサービスがないことで、不足感を感じている人も多かった。食事の自立ができないことは、高齢者の不安要素の一つでもあり、在宅生活の継続に大きく左右すると考える。

⑩. 除雪サービス

	利用者数
認定なし	17
総合事業	
要支援1	6
要支援2	2
要介護1	2
要介護2	1
要介護3	1
要介護4	
計	29

除雪サービスの利用者は29名で、調査数全体の23.0%であった。

サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

・浜益区における福祉サービスの中で、利用者が多いサービスである。除雪の入る主要道路までの距離が離れている家屋も多く、介護度に関わらず、冬期間の高齢者の生活を支えるためには欠かすことのできないサービスである。

・除雪サービス利用者中、独居は23名(79.3%)、高齢者世帯が6名(20.7%)であった。

⑪. 温泉入浴サービス

	利用者数
認定なし	4
総合事業	
要支援1	3
要支援2	
要介護1	
要介護2	
要介護3	
要介護4	
計	7

温泉入浴サービスの利用者は8名で、調査数全体の6.3%だった。

サービス充足度は、2名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数

- ・週1回→週2回…2名
- ・「土日もあればいい」「食堂がなくなり楽しみ減った」という記載あり

・毎週月曜日、各地区から温泉までのバス送迎を行うサービスである。地区人口の減少が進み、それに伴いサービス利用者も年々減少している。

・現状のサービスは送迎のみであり、待合所までの移動やバスへの乗降、温泉内での移動が自立していることが必要。本調査でも利用者は未認定と要支援1の方のみであった。乗降や移動介助、入浴中の見守り等のサービスがないため、介護の必要な方の利用にはつながっていない。

【現在よりも介護が必要になった時の暮らしについて】

問2. この先の生活のイメージをお聞かせください。

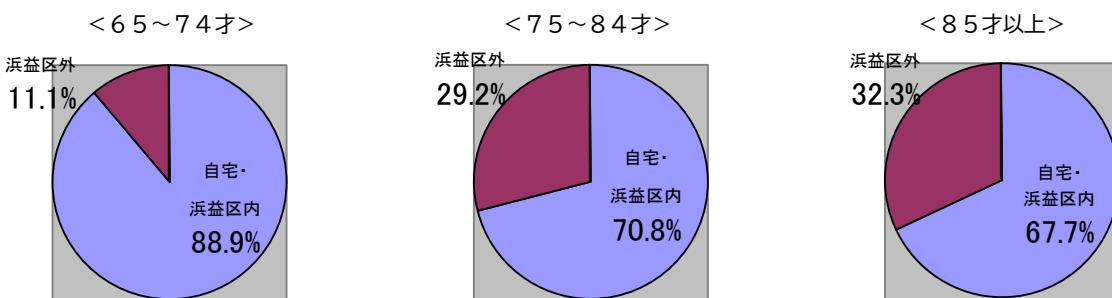
	人(%)
1. 自宅または浜益区内で暮らすだろう	88(69.8%)
2. 浜益区外で暮らすだろう	38(30.2%)
計	126

「自宅または浜益区内で暮らすだろう」と回答した人は 88 名 (69.8%)、「浜益区外で暮らすだろう」と回答した人は 38 名 (30.2%) だった。

①. 年齢別

	自宅または浜益区内	浜益区外	計
1. 65~74才	8	1	9
2. 75~84才	17	7	24
3. 85才以上	63	30	93

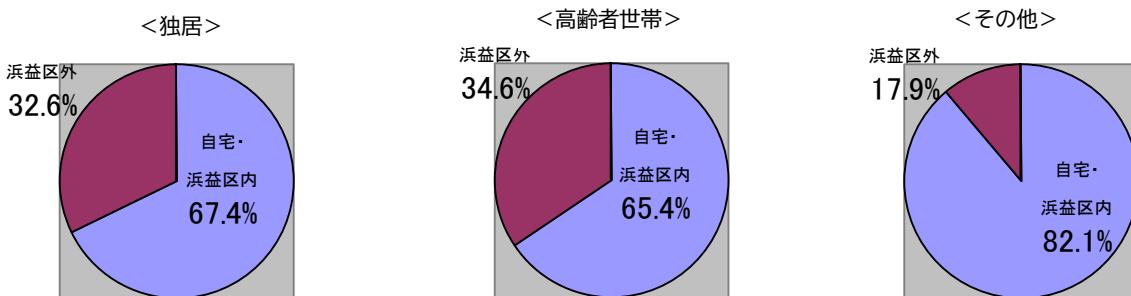
- 各年齢層で「自宅または浜益区内」と回答した人が多かった。
- 年齢が高くなるにつれ「自宅または浜益区内」と回答する割合が増加している。



②. 世帯状況別

	自宅または浜益区内	浜益区外	計
1. 独居	31	15	46
2. 高齢者世帯	34	18	52
3. その他	23	5	28

- 「独居」「高齢者世帯」では構成比にあまり差がみられなかったが、「その他」の世帯の 8 割が、「自宅または浜益区内」を選択していた。



③居住地区別

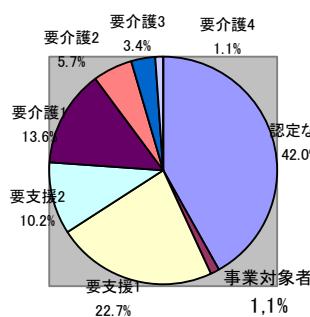
	自宅または浜益区内	浜益区外	計
1. 浜益	14(70.0%)	6(30.0%)	20
2. 群別	11(78.7%)	3(21.3%)	14
3. 幌	11(57.9%)	8(42.1%)	19
4. 床丹	0(0.0%)	0(0.0%)	0
5. 千代志別	1(100.0%)	0(0.0%)	1
6. 雄冬	1(50.0%)	1(50.0%)	2
7. 川下	16(69.6%)	7(30.4%)	23
8. 柏木	7(50.0%)	7(50.0%)	14
9. 実田	12(92.3%)	1(7.7%)	13
10. 御料地	0(0.0%)	0(0.0%)	0
11. 麻生別	13(72.2%)	5(27.8%)	18
12. 送毛	1(100.0%)	0(0.0%)	1
13. 濃昏	1(100.0%)	0(0.0%)	1

- 実田地区で「自宅または浜益区内」と回答した人は実田地区全体の 92.3% だった。また、実田地区で「自宅または浜益区内」と回答した人のうち、75.0% が「その他」の世帯であり、家族との同居やシルバーホーム入居者であった。

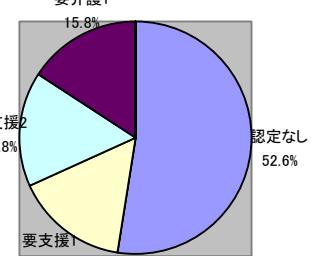
④. 介護度別

	自宅または浜益区内	浜益区外
1. 認定なし	37	20
2. 事業対象者	1	
3. 要支援1	20	6
4. 要支援2	9	6
5. 要介護1	12	6
6. 要介護2	5	
7. 要介護3	3	
8. 要介護4	1	
9. 要介護5		
計	88	38

<自宅または浜益区内>



<浜益区外>

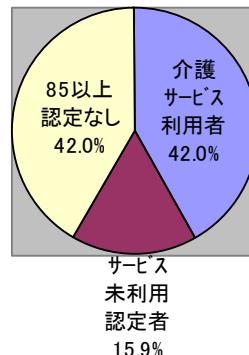


・「自宅または浜益区内」では、介護度の高い方も含まれていた。一方「浜益区外」でもっとも高い介護度は「要介護1」で、「認定なし」の方の割合も高かった。

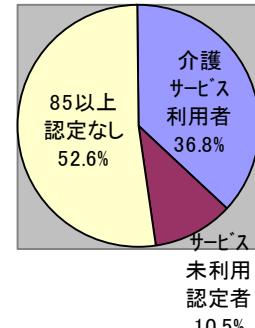
⑤. 調査対象別

	自宅または浜益区内	浜益区外
介護サービス利用者	37	14
介護サービス未利用の要介護認定者	14	4
85才以上の未認定者	37	20
計	88	38

<自宅または浜益区内>



<浜益区外>



・「自宅または浜益区内」と回答した人のうち、介護サービス利用者・未利用者を合わせた要介護認定者の割合は 57.9% であった。要介護認定を受け実際にサービスを利用していたり、現在利用していないけど認定を受け将来に備えている方のほうが、自宅または浜益区内で暮らすイメージを強く持っている。一方、「浜益区外」と回答した人のうち、要介護認定者の割合は 47.3% で、85才以上の未認定者の割合のほうが高かった。

◆ 「自宅または浜益区内で暮らすだろう」を選択した理由（自由記載）◆

◎「慣れ親しんだ地域で暮らし続けたい」という理由が多い。

「浜益から出ることは考えられない」という記載が多数であった。「浜益に愛着がある」「知っている人がいるところで暮らしたい」という記載も多い。「残りの人生は自宅で」「ずっと家で暮らす」「自宅で死にたい」「どんな体になんでも自宅にいたい」と在宅を強く希望された人にも数名いた。

◎介護が必要になった時のことをイメージしていない方もいる。

「あまり考えたことがない」「全く想像できない」ということで、現時点での希望として回答した方や、特に明確な理由がないという人が 10 名（約 1 割）いた。

◎「子供と近いところ」という理由を記載している方も多い。

同居の子供や区内に住む家族等からの支援を受けていたり、高齢者福祉センター・シルバーホームに入居し生活を送っている方で今後も浜益区内での暮らしを希望する方が多い。

◆ 「浜益区外で暮らすだろう」を選択した理由（自由記載）◆

◎「子供の住む場所の近くに行きたい（行かなければならぬ）」という理由が多い。

最も多いのが、「子供の住む場所の近くへ行きたい」あるいは「行かなければならぬ」という理由で、38 名中 23 名（60.5%）に記載があった。遠方に住んでいることで子に迷惑をかけたくない、近くに住むことで交流もしやすいと考えている方も多い。

◎区外で暮らす理由やタイミングを、具体的にイメージしている方が多い。

高齢者世帯が占める割合が多く、「夫婦どちらか動けなくなったら」「車の運転ができなくなったら」と具体的なイメージを持っている方が多かった。区外の病院に通院する必要があったり、健康上の不安を理由にしている方も多い。

問3. (「自宅または浜益区内で暮らすだろう」を選択した人) どのような暮らしやサービスを考えますか?

	人(%)
1. 自宅で夫婦または単身で暮らしたい	36(40.9%)
2. 家族のところで暮らしたい	9(10.2%)
3. 施設に入所して暮らしたい	43(48.9%)
計	88

・「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が 43 名(48.9%)と最も多く、次いで「自宅で夫婦または単身で暮らしたい」と回答した人が 36 名(40.9%)だった。

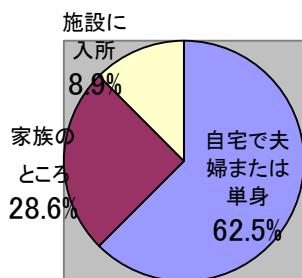
・同居の継続を含み「家族のところで暮らしたい」と回答した人は 9 名 (10.2%) だった。

①年齢別

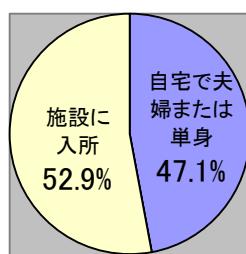
	自宅で夫婦または単身	家族のところ	施設に入所	計
1. 65~74 才	5	2	1	9
2. 75~84 才	8	0	9	24
3. 85 才以上	23	7	33	93

・「65~74 才」は「施設入所」と回答した人が少なかったのに比べ、「75~84 才」「85 才以上」はいずれも「施設に入所」と回答する方が5割以上だった。

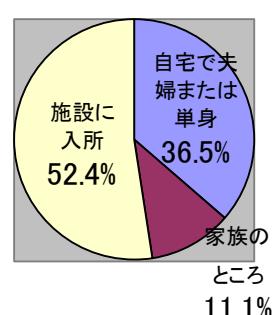
<65~74 才>



<75~84 才>



<85 才以上>



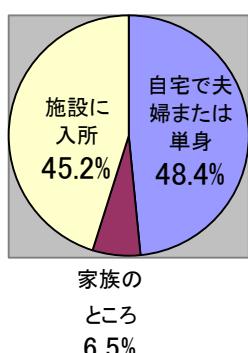
②世帯状況別

	自宅で夫婦または単身	家族のところ	施設に入所	計
1. 独居	15	2	14	31
2. 高齢者世帯	20	0	14	34
3. その他	1	7	15	23

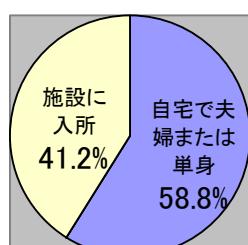
・「高齢者世帯」で「自宅で夫婦または単身」と回答した方が多かった。

・「その他」の世帯で「施設に入所」「家族のところ」回答した方が、他の世帯に比べて割合が高かった。

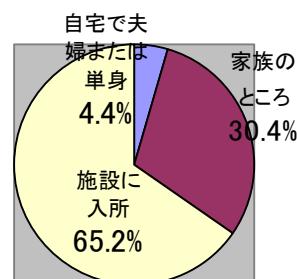
<独居>



<高齢者世帯>



<その他>



1. 「自宅で夫婦または単身で暮らしたい」と回答した人（36名）が利用したいサービス（複数回答）

		人
①訪問系	ヘルパー	3
	訪問リハビリ	3
	指定なし	17
②通所系	デイサービス	24
③医療系	訪問看護	4
	往診	4
	指定なし	16
④その他	ショートステイ	6
	住宅改修	5
	福祉用具購入・貸与	8
	配食サービス	4
	入浴サービス	3
	除雪サービス	5
	その他	※10
	指定なし	3

・様々なサービスを複合的に利用したいと考えている人が多い。内容に関しては指定のない人も多く、特にサービス未利用者の方は、具体的なイメージが想起しにくい傾向がある。

・通所系（デイサービス）は利用希望の人気が高かった。

※その他の内容

具体的に考えていない・できなくなったら考える(4)、住改の限度額拡大希望、入浴だけのデイがあるとよい必要になったらいろいろ利用する、娘の世話になる利用したいサービスなし、冬期間心配なので一時的に冬に入れるところほしい

2. 「家族のところで暮らしたい」と回答した人（9名）が利用したいサービス（複数回答）

		人
①訪問系	ヘルパー	
	訪問リハビリ	
	指定なし	2
②通所系	デイサービス	6
③医療系	訪問看護	
	往診	2
	指定なし	2
④その他	ショート	
	住宅改修	
	福祉用具購入・貸与	
	配食サービス	
	入浴サービス	
	除雪サービス	
	その他	3
	指定なし	2

・すでに同居等で支援があるためか、サービス利用に関しては訪問系よりも通所系（デイサービス）の利用希望が多かった。

※その他の内容

具体的になし（2）、老健ショート

3. 「施設に入所して暮らしたい」と回答した人（43名）が利用したい施設（複数回答）

	人（%）
①高齢者生活福祉センター	4 (9.3%)
②シルバーホーム	7 (16.3%)
③特養あいどまり	33 (76.7%)
④グループホームなごみ	2 (4.7%)
⑤記載なし	2 (4.7%)

・「特養あいどまり」が最も多く、回答者の76.7%が選択していた。特に介護サービス利用者であいどまりを希望する人が多く、現在ショートステイを利用している人は全員「特養あいどまり」への入所を希望していた。また、未認定者で「特養あいどまり」と回答した人が13名いたが、施設の種別や対象を十分理解していない印象があった。

・「シルバーホーム」は「特養あいどまり」の次に多かった。認定の有無にかかわらず希望者がおり、食事つきという魅力があると思われる。

・食事提供のない「高齢者生活福祉センター」希望者はすべて未認定者だった。

【施設入所で優先すること】(複数回答)

	計	センター	シルバーホーム	あいどまり	なごみ	施設名なし
①. 金額	9		3	4		2
②. 利便性	13	2		11		
③. サービスの内容や質	1		1			
④. その他	16	1	3	12	2	
⑤. 記載なし	10	1		8	1	

※その他に記載の内容

地元にあること（7）、知り合いがいるから（2）、息子夫婦に一任（2）、息子がいるから（1）、環境の良さ（1）、ごはんがついている（1）、具体的にまだ考えられない（1）

- ・最も多かったのが「その他」次に「利便性」であった。「その他」の内容には「地元にあること」「知り合いがいるから」など、地域への愛着をあげた人が多い。「利便性」についても、親しい人同士の行き来が可能であるという意味合いを含んだ回答が多かった。
- ・「金額」については、年金収入でまかなえるところというイメージを持っている方が多い。区外の施設は高額であると理解している人もいた。

【(高齢者生活福祉センター・シルバーホームと回答した人) 利用したいサービス】(複数回答)

		計	高齢者生活福祉センター	シルバーホーム
①訪問系	ヘルパー			
	訪問リハビリ			
	指定なし	4		4
②通所系	デイサービス	4		4
③医療系	訪問看護			
	往診			
	指定なし			
④その他	ショート			
	住宅改修			
	福祉用具購入・貸与			
	配食サービス			
	入浴サービス	1	1	
	その他			
	指定なし	1		1
記載なし		5	3	2

- ・認定を受けていない人も多く、在宅サービスを利用して施設で生活するという具体的なイメージがわかないためか、記載なしの人も多かった。

問4. (「浜益区外で暮らすだろう」を選択した人) 浜益区外で、どのような暮らいやサービスを考えますか?

人(%)	
1. 一軒家またはアパート・マンションで夫婦または単身で暮らしたい	2 (5.3%)
2. 家族のところで暮らしたい	10 (26.3%)
3. 施設に入所して暮らしたい	26 (68.4%)
計	38

- 「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が26名(68.4%)と最も多く、次いで「家族のところで暮らしたい」10名(26.3%)だった。
- 「一軒家またはアパート・マンションで夫婦または単身で暮らしたい」と回答した人は2名(5.3%)で、浜益区内で同様の生活を送ることを希望した人に比べて少なかった。

①年齢別

	一軒家、アパート、MS で夫婦または単身	家族のところ	施設に入所	計
1. 65~74才	0	0	1	1
2. 75~84才	0	0	7	7
3. 85才~	2	10	18	31

- 「65~74才」「75~84才」は、すべての人が「施設に入所して暮らしたい」と回答していた。
- 「85才以上」は「施設に入所」と回答した方が最も多く、次いで「家族のところ」が多かった。

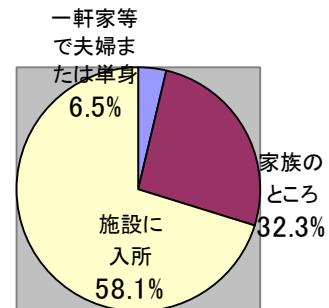
<65~74才>



<75~84才>



<85才以上>

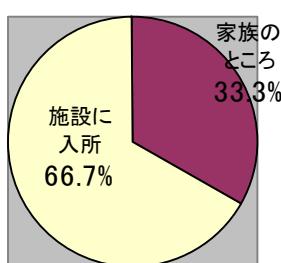


②世帯状況別

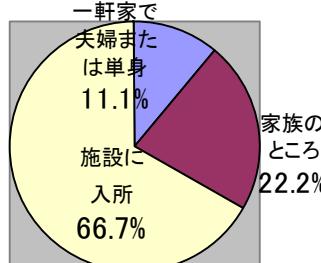
	一軒家、アパート、MS で夫婦または単身	家族のところ	施設に入所	計
1. 独居	0	5	10	15
2. 高齢者世帯	2	4	12	18
3. その他	0	1	4	5

- どの世帯でも「施設に入所」と回答した人が多かった。
- 「一軒家、アパートまたはマンションで夫婦または単身」と回答したのは、すべて「高齢者世帯」だった。

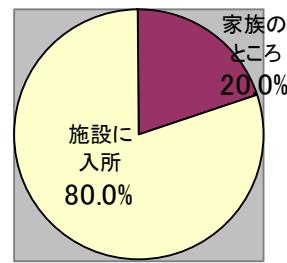
<独居>



<高齢者世帯>



<その他>



【「施設に入所して暮らしたい」と回答した人（26人）が利用したい施設】（複数回答）

	人（%）
①サービス付き高齢者住宅	8 (30.8%)
②有料老人ホーム	3 (11.5%)
③特養・グループホーム	5 (19.2%)
④その他	12 (46.1%)

※その他に記載の内容

具体的になし（5）、病院（4）、子供の近くの施設（1）

食事つきの施設（1）、夫が入所していた老健（1）

・「その他」と回答した人が最も多く、「具体的には決めていない」や「病院」をあげた人が多かった。次に「サービス付き高齢者住宅」が多かった。

・「特養・グループホーム」を選択した人は回答者の19.2%だった。浜益区内の施設利用希望者で「特養あいどまり」を選択した人が76.7%だったのとは対照的な結果であった。

【施設入所で優先すること】（複数回答）

	計	サービス付き 高齢者住宅	有料老人ホーム	特養・グループ ホーム	その他
①. 金額	12	4	2	3	4
②. 利便性	8	2	2	1	4
③. サービスの内容や質	2		1		1
④. その他	7	1	1	1	4
⑤. 記載なし	4	1			3

※その他に記載の内容

子供や家族の近く（5）、子供の意向（2）

・最も多かったのが「金額」、次に「利便性」「その他」であった。その他の内容には「子供や家族の近く」と回答した人が多かった。